



種まきと収穫から学ぶ

食育教室 トウモロコシ収穫・8/9

No.5

西城町油木のトウモロコシ畑で、前油木宮農組合主催の食育教室が行われ、西城小学校と美古登小学校の3年生21人が参加しました。このイベントは平成21年から始まり、トウモロコシの種まきと収穫を体験することで、食の大切さと生産者への感謝の気持ちを育成しています。

収穫の後は、旧油木小学校の体育館に移動し、地元の方が用意してくれた、ゆでたトウモロコシとおにぎりを食べながら、地元の方と交流を深めました。

児童は「1センチメートルくらいの種から『88日でこんなに大きくなるんだ』と思った。自分たちで作って食べたので、とてもおいしかった」と話していました。



▲採れたてのトウモロコシを丸かじり

地域で貴重な神事芸能を披露

広島県指定無形民俗文化財「三上神楽」・7/29

No.7

山内小学校の体育館で、日吉神社（山内町）の宮司が交代したことを記念して三上神楽が奉納されました。三上神楽は庄原地域に古くから伝わる神楽で、昭和60年3月14日に広島県指定無形民俗文化財に指定されました。現在でも神職のみで継承されており、儀式性を重んじているのが特徴です。

指紙や魔駈などの儀式舞の後、奉幣祝詞（神事）を挟み、御神、八戸などの能舞が演じられました。中でも、御神で日吉神社の御祭神が人々に災いをもたらす悪鬼を退治した場面ではひととき大きな拍手と歓声があがりました。

会場には地域の皆さんをはじめ、市外からも大勢の方が来場し、貴重な神楽を堪能していました。



▲日吉神社宮司による儀式舞「舞の一」（神迎え）

地元高校生が地域に貢献

東城高校生徒によるボランティア清掃・7/24

No.4

東城高校の生徒によるボランティア清掃が、東城駅と町内4コースに分かれて行われました。

この取り組みは、毎年夏と秋に行われており、今回は参加を希望した生徒約40人が、東城駅舎の掃除や道路沿いのごみ拾いなどの清掃活動を行いました。

生徒は「思ったよりごみが落ちていた。ポイ捨てをしないようにしてほしい」「地域に貢献できてうれしい。今後もこのような活動を続けていきたい」「きれいになって良かった」などの感想を話していました。

また同日、小学校の学習ボランティアにも15人程度参加しており、夏休みの宿題などの学習支援を行いました。



▲道路沿いのごみ拾い

森の大切さを学ぶ

アサヒの森「森と水の学習会」・7/25

No.6

比和町の甲野村山で、アサヒの森環境保全事務所・広島北部森林管理署・広島水源林整備事務所が主催する「森と水の学習会」が開催され、比和小学校の5・6年生18人が参加しました。

児童は、紙芝居による学習や自然観察で森の働きについて学び、地元農家の方から森の中にある木の実などの食材を教してもらいました。その後、丸太切り体験や木工教室を行い、森の大切さを学びました。昼食は当日の朝、有害鳥獣として捕獲されたイノシシの肉や地元野菜を使ったバーベキューと、「すくもくど」で炊かれたご飯を堪能しました。

6年生の松本凌河君は「紙芝居を見て森がダム役割をはたしていることを学習できた」と話していました。



▲班に分かれて行った自然観察

楽しい体験で夏の暑さも吹きとばす

鮎の里公園鮎のつかみ取り体験・7/29-30 8/5-6

No.1

口和町の鮎の里公園で鮎のつかみ取り体験が行われました。

公園内の人工池に鮎を放流し、子どもたちが素手でそれを捕まえます。子どもたちは池に入り、服がぬれてもお構いなしで夢中になって鮎を追いかけていました。捕った魚は塩焼きにしてその場で食べたり、持ち帰ったりしていました。

参加した子どもは「逃げるのが速くて捕まえにくかったけど、鮎が捕れておもしろかった。塩焼きもとてもおいしかった」と話していました。



▲捕まえた鮎を慎重にバケツへ運ぶ



▲鮎を捕まえた



▲鮎に逃げられた！？



▲石の隙間を探す

ニュースポーツを体験

ニュースポーツ講習会などを開催・7/23

No.3

里山総領体育館で、ニュースポーツ講習会&自治会対抗ソフトバレーボール大会が開催され、約70人が参加しました。

ニュースポーツ講習会では「ワンバウンドふらばーボールバレー」が行われました。この競技はワンバウンドした軽い変形ボールをレシーブするため、ボールの飛ぶ方向が予想しにくく、珍プレー・好プレーが続出しました。

自治会対抗ソフトバレーボール大会では熱戦が繰り広げられ、昨年に続き^{かみいち}上市自治会が優勝しました。

主催した節分草スポーツクラブの^{あまのたけ}天野武副理事長は「今後も、地域でニュースポーツを普及させ、スポーツの楽しさを伝えていきたい」と話していました。



▲変形ボールをうまく打ち返した

待ちに待った収穫

たかの体験夏の収穫祭・8/11

No.2

上高自治振興区が主催する「たかの体験収穫祭」が高野町のたかの体験農場で開催され、県外からの参加者を含め160人がトウモロコシの収穫を体験しました。この催しは、中山間地域のにぎわい創出を目的に広島県が実施している「ひろしまさとやま未来博2017ココロザシ応援プロジェクト」に採択されています。

収穫期を迎えた約千本のトウモロコシを目当てに開始前から行列ができ、1時間もたないうちに全て無くなりました。参加した子どもたちはスタッフにおいておいしいトウモロコシの見分け方を聞きながら、真剣に選んで収穫していました。

口和町の^{つみでまたいすけ}積山泰介君（4歳）は「とても大きくて驚いた。自分で採れて楽しかった」と話していました。



▲トウモロコシの収穫を体験（写真提供：庄原格致高2年 堂面風人）